

# ピーマン・ししとうの栽培法

2011/10/10

## 植えつけの準備

耕土が浅いと地表近くに根を張り、細根が多いので、深く耕やして水排けをよくし、有機物を多く入れて出来るだけ根を深く張らせるようにする。また、生育期間が非常に長く、霜が降りるまでなり続けるので、肥切れさせない肥培管理が大切。土作りが終われば、うね幅120cmの高めのうね作りをする。

## 植えつけ

平坦地の暖かい所は4月中～下旬、中山間地は5月中旬が植えつけの適期で、地温が12℃以上になってから晴天無風の日を選んで行なう。株間40～45cmの1条植えとし、深植えにならないように、株元を少し盛り高にし、たっぷり水やりをする。

## 植えつけ後の手入れ

植えつけ後、長さ80cm、太さ2～3cmの支柱を株元から15cm位はなして斜めに立て、分枝の下で結びつけ、風などによる倒伏を防ぐ。ピーマンは最初に着果した果実の直下から2～3本分枝するからこれを主枝とする。

日本種苗協会長崎県支部/市川種苗店

その後主枝から次々に分枝をくり返しながら着果する。整枝としては、最初の分枝を残してその下の側枝はすべて摘み取る。一生育が盛んになって内側の枝がよく伸び、日当たりが悪くなり、花の着きが少なくなってきた時は、中央の混み合った枝を間引きせん定する。生育期間が長くなり樹が大きくなるときは、長さ1.5m位の支柱を2mの間隔で立てて針金を張り、ポリテープなどで枝をつり上げ誘引する。梅雨が明けてからは、敷きわらや敷き草を土が見えなくらいにして、土の乾燥を防げば盛夏期でも収穫が続けられる。また、水やりは一度に多量与えるのではなく、定期的に少しずつやり適湿を保つこと。

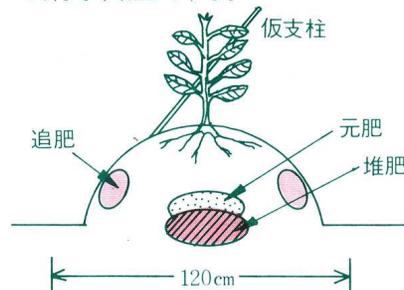
## 収穫

開花から収穫までの日数は草勢や温度によってかなり異なるが、15～20日ぐらいである。着果数に応じて、多いときは若どりを、少ないときは少し大きくしてからとるようにする。

※一部又は全部の引用を禁止いたします

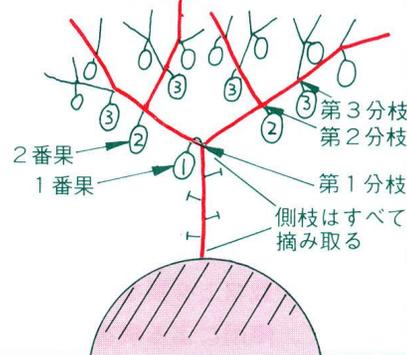
## 1. うね作りと定植

深耕し、うねの中央に堆肥、元肥を入れてうね立てする。



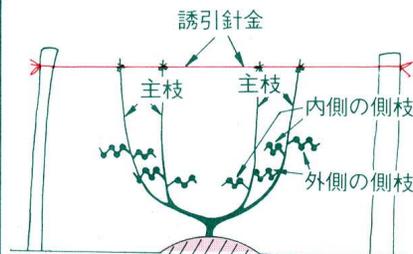
株間45cmの1条植、浅植えとし株元を少し盛り高にしてやる。

## 2. 整枝と着果



1番果の直下から2～3本分枝するので、これを主枝とする。主枝から分枝をくり返して、その節に着果していく。

## 3. 大きくなって内部が混み合ってきたら…



空間ができるように誘引せん定し、よく光が入るようにする。

第1分枝・第2分枝のなかで太い分枝を主枝として誘引していく。これに生ずる側枝を外側のものは3～4果、内側のものは2～3果でせん定し、収穫後1節を残して切り返しせん定する。

## 4. 収穫



開花後15～20日程で収穫期に入る。実が大きくなったものから早めに収穫する。